

トビウオ通信 (H19 第 7 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 19 年度第 2 回日本海スルメイカ漁況予報》

当技術センターをはじめとして北海道から長崎県までの水産研究機関と独立行政法人水産総合研究センターが協議し、日本海区水産研究所がとりまとめた第 2 回日本海スルメイカ長期漁海況予報（平成 19 年 7 月 20 日付け）が発表されました。今回はその内容を基に、今後のスルメイカの漁況を検討します。

スルメイカ漁況の今後の見通し（予報期間 8～12 月）

日本海西部

- 漁期・漁場：10 月以降の産卵南下群が漁獲対象となる
- 来遊量：昨年および近年平均を下回る
- 魚体の大きさ：近年平均より小さい

日本海沖合域

- 漁期・漁場：大和堆付近の海域で 7～9 月を中心に漁場が形成される
- 来遊量：昨年および近年平均を下回るが、10 月以降漁況は回復傾向となる
- 魚体の大きさ：近年平均より小さい

※近年：過去 5 年間（2002～2006 年）

漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況

平成 19 年 6 月下旬～7 月上旬に日本海区水産研究所および各県の水産研究機関によりスルメイカの漁場一斉調査が実施されました。図 1 に釣獲試験によるスルメイカの分布量を CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量）で示しました。

【分布状況と大きさ】

日本海の本州沿岸域では平均外套背長が 17～18cm 台のものが多く、近年平均よりも小型でした。分布密度は、一部の海域で CPUE が 20 個体以上の比較的高い調査点も見られましたが、全体的に 10 個体以下の海域が多く、分布密度は低い傾向にありました。

日本海の沖合域では、ほとんどの調査点で平均外套背長が 19～20cm 台であり、日本海沿岸部と同様に近年平均よりも小型でした。分布密度は、CPUE が 20 個体以上の調査点も見られる一方で、沿海州南部沖では 5 個体以下の調査点が多く、総じて分布密度は低い傾向にありました。

【分布量から推定された資源水準】

今年のスルメイカの分布密度を示す CPUE（釣り機 1 台 1 時間あたりの採集個体数）の全調査点の平均

は 11.2 個体でした (図 2)。この値は昨年の値(15.8 個体)の 71%、過去 5 年間の平均値(17.2 個体)の 65% でした。このことから、今年の日本海におけるスルメイカの資源量は、昨年および近年 5 年平均を下回ると推定されました。

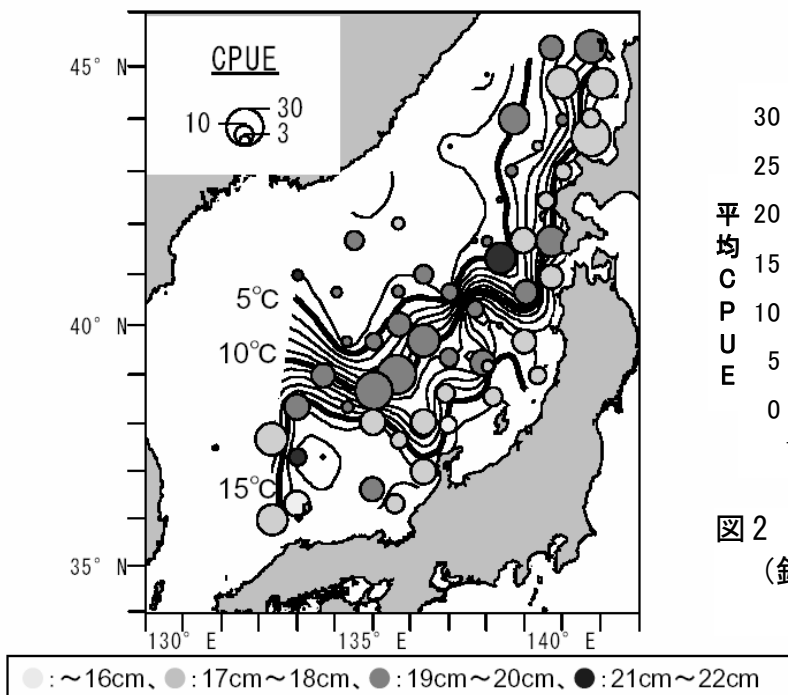


図 1 漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況
● の面積は各調査点における CPUE を示し、色は平均外套長を示す

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは低調傾向続く・・・

浜田港に水揚げされた小型イカ釣 (5 トン以 30 トン未満)、中型イカ釣 (30 トン以上) によるスルメイカの月別の漁獲動向を図 3 に示しました。前報 (3 号) 以降は北九州沖の海域などで漁場が形成されたために山陰沖における漁獲は平年を下回って低調に推移しました。このため、浜田港における平成 19 年 1~6 月までの水揚量は 821 トンで、前年同期の 1.8 倍、平年同期の 73% となりました。

例年、8 月以降の漁獲量は少なく、前述のとおり日本海全域におけるスルメイカの資源量も、近年よりも少ないと判断されていることから、島根県沖へのスルメイカの今後の来遊量は、残念ながらあまり期待できないものと考えられます。

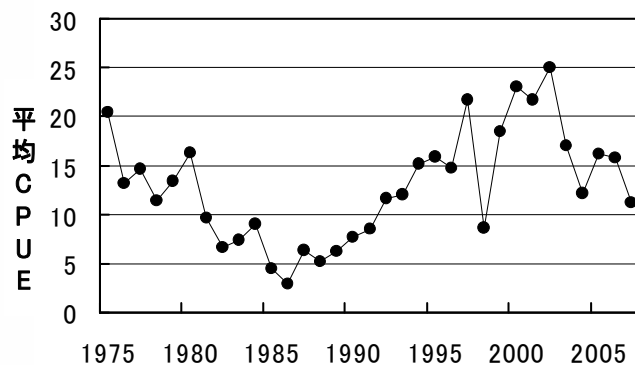


図 2 漁場一斉調査における平均 CPUE (釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量) の経年変化

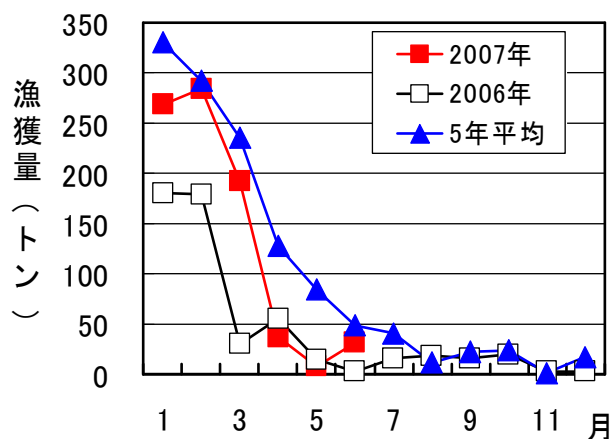


図 3 浜田港にイカ釣り漁業(5 トン以上)により水揚げされたスルメイカの漁獲動向 (H19 は 6 月までの値)